

月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>



2019

3

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかげょうき川柳社 2月例句会	19
十和田たてがみ川柳会 1月句会報	27
川柳吟行会 ぽ 熊谷冬鼓	17
■作品鑑賞■	
—奈良一艘がとことん深読む— 「深艘心理」 奈良一艘	26
■連載エッセイ■	
リレーエッセイ「途中下車」 ひとり静	18
Infomation	30～

カンテラ

おかじょうき川柳社代表

むさし

2月10日、青森市で「寄生木さんを語る会」が開催された。

「かもしか」「北貌」を主宰し長い間川柳界を牽引してきた高田寄生木さん、残念なことに昨年11月、85歳で亡くなられた。

参加者はおよそ40名。宿題「寄」「生」「木」の句会后、ゆかりの方々が壇上に立ちそれぞれ思い出を披露。

寄生木さんの妹「工藤お貞」さんという方もその一人。寄生木さんやすらかに。

北限の一等星がまた消えた むさし

それでは、カンテラに明かりを灯しましょう。

結構あるものね。で、この「箱」、何が入ってるのか気になる…。

B群

空色の羽根を持つてる猫という	ひろく
たたかわぬ人がたたかう仕度する	月波与生
鬼門を開ける朝ドラを見始める	土田雅子
スリッパを穿いて埴輪の目を歩く	岩根彰子
終活へバケツの水が多過ぎる	斎藤泰子
カサノバの対角線に布袋尊	須藤んのすけ
カタログにたいたいにつく号の背鱗	田久保亜蘭
台風の日のグラタンの海老の殻	柳本々々
青い空食べてピンクになりました	夏井せいじ
もう少し謙虚にもう少しバナナに	守田啓子
三月が甘納豆を探してる	葉 閑女

葉閑女さん、「三月」は「甘納豆」を待ってたんですね。坪内稔典さんの俳句「三月の甘納豆のうふふふ」をこんなに鋭く屈折させるなんて、豪腕だなあ…。本歌取もいいね。

A群

つんつるてんとすつとこどつこのマリネ	向山タエ子
いつだって手はある鼻に穴もある	安藤なみ
冒険もしたいしクラゲでもいたい	石橋芳山
こめかみのあたり火を噴くゴジラ棲む	瀧尻善英
顔上げる悩んでいると日が暮れる	村井規子
晴れのち曇りがんセンターを後にする	城後朱美
死ぬに死ねない低体温の造花	きさらぎ彼句吾
そうだったことしておく棚の箱	熊谷冬鼓

熊谷冬鼓さん、これほど漠然とした句もなかなかないよ…。私は川柳教室で「句に具体性を持たせるように」とよく言うのですが、こういう句もいいものですね。そうでないのに、そうだったことにするって人生の中には

C群

しりとりは暗闇みかんもう終わり	米山明日歌
事件当時わたしは卵食べていた	鳴海賢治
鳥の館に長逗留する臍月	小野五郎
鳩が飛ぶ残像として皺として	奈良一艘
東北は北海道より北である	松木 秀

米山明日歌さん、「しりとり」って「暗闇」だったの？ じゃないんだよね…。ところで、「しりとり」って「みかん」のように語尾が「ん」になる言葉を言うとき、すよね。なのに、広辞苑（第七版）にも新明解国語辞典（第五版）にもそんなことひと言も書かれていない…（汗）私が間違ってる？それとも、アフリカの言葉なんかには「ん」で始まる言葉が多いって言うから、「ん」で終わる言葉と言うと負けてルールはなくなつたのかもしれないなあ…（汗）にしても、「暗闇」↓「みかん」って、明日歌さん「み」のつく言葉がほかに思いつかなかったの？（笑）もしかしたら、この句のあれもこれも比喩で、もつと違うことを言ってるのかも…。

鳴海賢治さん、「事件当時」って何の事件ですか？「卵食べていた」って、茹で卵ですか？それともオムレツ？卵焼き？親子丼？スクランブルドエッグ？茶碗蒸し？炒り卵？卵かけご飯？うううう、あと思いつかない…。「事件」でネット検索したら、1996年に福岡ダイエーホークスの移動バスのフロントガラスに向けて20個前後の生卵が投げつけられた「生卵事件」というのがヒットしたけど、20数年前のこんな事件なんて関係ないよな…。ああ…不思議、な句。

小野五郎さん、「鳥の館」をキーワードにネット検索すると、焼き鳥屋しかヒットしません。この句の「鳥の館」って焼き鳥屋のことだったの？うーん、違うよね…。やっぱり、「鳥」の棲んでる邸宅ってことだよ。で、そこへ「ツバメさん今晚は」なんて「朧月」さんがやって来て、何日もいたってことだ…。もしかしたら「鳥の館」のご主人は五郎さんで、そこへ「朧月」という源氏名の方が来て居続けたってことなんじゃない？

奈良一艘さんも「鳥」ですか…。「鳩」ねえ。私や、「鳩」と言ってもキジバトやドバトぐらいいしか知らない。「鳩が飛ぶ残像」+「として」に「皺」+「として」が連結されているって、一艘さんが「鳩が飛ぶ残像」であり「皺

(しわ)」であるってことだよ。タバコのピースのパッケージは「オリーブの葉をくわえた鳩」で、「鳩」は平和の象徴のようでもあるけれど、「空飛ぶネズミ」だって言う人もいる…。(汗)あれ？「皺」を広辞苑(第七版)で引いたら「水面の波紋」という意味もある…。「空飛ぶネズミ」で「波紋」かあ…。一艘さんって、そうだったの？

松木秀さん、この句を読んでぶっ魂消しました。まさかそんなことはないだろうとは思いましたが念のため調べました。調べた結果、またぶっ魂消しました。誰でも知っているとおり北海道は津軽海峡より北にあるのだけれど、青森県大間崎の北端が北海道白神岬の南端より15キロくらい北にありました…。(汗)で、秀さんのこの句ですが、「青森県は北海道より北である」じゃなく「東北は」だから北海道南端と青森県北端がどうのこうのなんて言っていないですよ…。秀さんの頭の中では、「東北」が樺太辺りにあるってことだ…。「東北」って、そんなにロシアっぽいかな…。あれ？「北」ってジョンウンさんの国のこと？こんがらがっちゃった。ザギトワとマサルがムニムニユブツツツ…。

おかしょうき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅2月月間賞

割れたまま家へ帰っていいですか？

齋藤 泰子

安藤なみ【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

ヒレ酒の何杯分か鯨の尾ビレ
いっだって手はある鼻に穴もある
大将は家を女将は店をとる
神前でメモを読んでるお金持ち
雪山はみんな富士山しかも晴れ

先月号のお気に入り
思い出という名のゴミのシルエット 吉田吹喜
シルエットが効いています。

石橋芳山【いしばしほうざん・島根県松江市】

非常口そんじよそこらを折りたたむ
QRコード選別されて俺
10号車5Aは昨日からレレレ
冒険もしたいしクラゲでもいたい
慇懃無礼に右の肩パット

先月号のお気に入り

帆【いちほ・秋田県秋田市】

嘘ついて嘘ばれる時幸せ
編みかけのマフラー母はくたびれた
スケジュール調整できぬまま夫婦
うんざりを積み重ねてる春の雪
だからって9パターンの嘘をつく

先月号のお気に入り
ありがとって口がへの字に曲がってる 夏草ふぶき
心では素直にありがと、だけどね。

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

こめかみのあたり火を噴くゴジラ棲む
点と点結んで自分史を綴る
悔いなんてひとつも無いと落ち椿
待つて待つて待つて大人になりました
糠に釘それはアナタの事ですヨ

先月号のお気に入り
編集と執筆わたしも二刀流 葉 閑女
他人にはわかってもらえないこの苦勞。ご苦勞様です。

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

スリッパを穿いて埴輪の目を歩く
むらむらと生きよ紅白鱈から
〇〇〇〇〇〇千切れんばかり振る世間
滲ませる枝垂れ桜の毛細血管
班猫の6分の1眩しくて

先月号のお気に入り
あなたの中でりんごが腐る私が腐る 守田啓子
状態に同感します。

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

鳥の館に長逗留する朧月
弾道を外れ自爆する一升瓶
御公儀に歯向かっている栗南瓜
プリズムを透過してきて謀叛人
身の丈の寝巻がほしいサガルマタ

先月号のお気に入り
大丈夫この世あの世は地続きよ ひとり静
そっだったのか。目から鱗、耳から石ころです。

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

てにをはをはぐらかされてから泡あぶく
死ぬに死ねない低体温の造花
袋小路に西日の滲みたクリぼつち
綿毛ふわふわ地に星を撒く命撒く
喪心を無色なジャズが埋め尽くす

先月号のお気に入り
こ、こんにちは姥捨て山はここですか まきこ
姥捨て山をこんなに初々しく訪ねられたら、もうひと花
咲かせられそうですね

熊谷冬鼓【くまがいとうこ・青森県青森市】

疑問符がよつこらしよつとやってくる
そうだったことにおく棚の箱
メガネ拭く春の呪文を唱えつつ
厄介かどうかは緑茶淹れてから
背景に桜の芽吹き足しておく

先月号のお気に入り
これ以上ひき伸ばせないゴム鉄砲 則田椿
ゴムが切れたら自分に跳ね返りませぬ。ご用心ご用心。

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

パトカーと目を合わせないようにする
背のファスナー見えないように立つ角度
終活へバケツの水が多過ぎる
捨てなさいワクワクしないところなら
日めくりの未来はかしこまっている

先月号の
お気に入り

ねばならぬそんなこんなで生きてきた まきこ
ねばならないことなんてそんなには無いはずなのに、
ねえ・

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

延命治療しないと決めた夫がいた
前向きに生きた男の設計図
足湯ぼかぼか孫と語らう夫の顔
想い出は背中合わせのあたたかさ
晴れのち曇りがんセンターを後にする

先月号の
お気に入り

それぞれの速度で交差する涙 吉田吹喜
夫が亡くなった。母と娘たちそれぞれがなしみか時間差
でこみ上げる。

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

母が逝き雪に情けを尋ねてる
鼻たれのキリンの父がした麩
冬籠りひねもす墨で雪を描く
お年賀のつもりで贈る宝くじ
トランプを女ばかりでする終電車

先月号の
お気に入り

やがてやがて私は雪を嫌うだろう 吉田州花
やがてやがて私は雪が好きになりそうです

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

生臭い喪服他人という微罪
カサノバの対角線に布袋尊
焼き芋のふわり 左の手にふわり
図書館の正しい嘘を渡される
盗品のコントラバスを弾く指

先月号の
お気に入り

笑わない男のポケットの匂い 月波与生
これからはちよっと気にしてみよう！

田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

「レアが好き」と唇の厚いおんな
カタログにたいたにつく号の背鱗
始まりは二月生まれの肥育牛
見覚えのない個性ぶら下げ江戸へ
透明になれたかと言う不透明

先月号の
お気に入り

発光の角度が違う宝もの 安藤なみ
仲良しいが仲良しグループはあまり歓迎しないほどだ。宝ものよ
うな個々の灰汁が失われて行くのは、国家の重大な損失じゃなかろうか。

土田雅子【つちだまさこ・青森県青森市】

六十歳 雨が降るならそのように
溺れるの意味がわかって来たお酒
鬼門を開ける朝ドラを見始める
病院の窓辺に春のひよっこりはん
花は咲くまま葉っぱは落ちるまま

先月号の
お気に入り

今日落ちた枯葉の数を知っている 高橋 星湖
胸の奥がきゅっと切なくなりました。

月波与生【つきなみよじょう・宮城県仙台市】

嘘がつけなくておしゃべりな猫を飼う
平凡ですが死にかけているのです
リハビリの父の歩幅を待っている
伝わらぬ気持ちふたりして眺め
たたかわぬ人がたたかう仕度する

先月号の
お気に入り

夏井せいじ【なついでいせいじ・新潟県新潟市】

まず神を削除話はそれからだ
原爆を落とした国と仲がいい
CMさんアナタ本気で言ってるの
紙ひとえからドキドキ引けば風の音
青い空食べてピンクになりました

先月号の
お気に入り

一万円札が熟したので食べる 安藤なみ
わが家の一万円札は仲々熟しませんか・・・

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

おどおどと白い踵に雪積もる
首伸ばし色目を使う本の山
優しさが洪水となり人が病む
ポンと鳴り冷えた蕾が沸いてきた
青空が根を下ろせずにいる不安

先月号のお気に入り
ユトリ口の角を曲がれば冬の舌
あ角を曲がってみたくります
米山明日歌

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

バズっている金平ごぼうの優柔不断
手を繋げば「相田みつを」になつちまう
鳩が飛ぶ残像として皷として
魔法使いになるはずだった味噌ラーメン
家内安全無病息災尿酸値

先月号のお気に入り

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

常識の範囲を超えたハリネズミ
情け無用閻魔大王振り向いた
とうさんのパンツを穿いてがらんどろ
実感はなかった血管年齢
事件当時わたしは卵食べていた

先月号のお気に入り
介護の手だな啄木の霜柱
「手だな」にインパクトがありました
きさらぎ彼句吾

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

パイプ椅子きつと男性だと思う
そうねもう家族写真は沖の船
蹟くのはルートマイナスあたり
背開きの鯨を見習ってほしいわ
身も蓋もないほどうつくしい話

先月号のお気に入り
裾模様キソウテンガイにして下さい
どこまでも裾が広がってしまつてしょう。
小野五郎

ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

空色の羽根を持つてる猫といる
猫を飼う愛玩用の建前で
甘噛みを覚えて猫は猫になる
獣です抱かれて爪を切られても
ぼーとしていると当然ねが来る

先月号のお気に入り

松木 秀【まつきしゅう・北海道登別市】

スプレーも百本あればテロみたい
競馬にて三万勝つて五万負け
朝マックなんでたまごにこだわるか
本音しか言えぬのも病のひとつ
東北は北海道より北である

先月号のお気に入り
さらさらと落ちてゆくのは赤い砂
辺野古の赤土さえ連想してしまつた。
吉田吹喜

まきどり【まきどり・青森県青森市】

付度があふれかえっている私
じゃんけんの逆襲ひとり勝ち続け
散りたがる桜自画像蒼いまま
ほかほかのお小言くれて去つた人
いい日旅立ち鯖の水煮の汁となる

先月号のお気に入り
今はもう思い出だけになる景色
ひとり静
どんな景色なのでしょう。ふっと寂しくなりました。

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

屈伸の屈ができない柔軟性
腹筋でバランスをとる重量感
どうでもいいのに引つかかる眉毛
遠慮はいらぬのよ真つ向勝負
春風を引き寄せている肺活量

先月号のお気に入り
ああなんと憎つたらしい「個」「個」「個」
その個性がいいこともあるんだけど・・・わかるよ！
吉田吹喜

向山タエ子【むこうやまたえこ・青森県青森市】

つんつるてんとすつとことどつこいのマリネ
南無阿弥陀仏がペロペロキャンディ舐めてる
これみよがしに婆に瞬くイルミネーション
ネンネンコロリ食べてみたいなボタン鍋
トナカイの背にサンタに化した父が居る

先月号のお気に入り
棄てて棄ててこの身一つの置き所 熊谷冬鼓
これはまさしく私自身の姿でもあります。身につまされ
ました。

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

かごめかごめ看取つてくれる誰かさん
顔上げる悩んでいると日が暮れる
瘡蓋一片これが私の一年間
わたくしは雪になっても黒いまま
親と子の轍伸びたり縮んだり

先月号のお気に入り
「幸福の意味」それもお金で買ったちゃおう Sin
「幸福の意味」は人それぞれ。そもそも値段なんてつけられ
ない気がする。

柳本々々【やぎもともとと・東京都目黒区】

ユダ理解する鬼の子理解すると
ざっぱんと秋刀魚ほつれを落ちてくる
台風の日のグラタンの海老の殻
蕎麦人間渋谷新宿徘徊
梨 おしっこひとりでするよと走る

先月号のお気に入り

葉 閑女【ようかんによ・青森県青森市】

掛け軸は志貴皇子です春ですよ
魔女扱いされて三杯目のワイン
三月が甘納豆を探してる
割り勘にしてよイチゲが咲いたから
また一つ年を重ねておーっ、寒い

先月号のお気に入り
魔が差してナマコの夢の中にいる 米山明日歌
「ナマコ」の夢の中「居心地がいいよっな、悪いよっな…。」

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

不正だらけの日本ブランド地に落ちた
同じ答弁ばかりもう聞き飽きた
責任は誰が取るんだ子の未来
平成後戦争が始まる予感
灯りがほしい長いトンネル抜けるまで

先月号のお気に入り
やって来るのは終り きつと終わる 吉田吹喜
いいことも悪いことも始まりがあれば、終わりもある。

守田啓子【もりたけいこ・青森県青森市】

もう少し謙虚にもう少しバナナに
太巻きに巻かれなんだかホワイトアウト
厚切りの背任罪に塗るマスタード
話は盛るし事件にはしたがるし
失敗なんてないの柏汁あたためる

先月号のお気に入り
思いがコンペイトウになって冬 米山明日歌
雪じゃなく甘くてかわいいうコンペイトウを降らせて・・・
おしまいにしましょう。

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

雪つづく前髪カールしています
コンビニへサプリメントの支払いに
雪予報椿の赤は私語
その日まで雪に嫁いだことにする
真冬日の鍋ふきこぼし鳩を出す

先月号のお気に入り
てのひらのクシャクシャな夕暮れ 奈良一艘
クシャクシャは見なかつたことにしましょう

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

息を止め瞬きもせず 雪の調べ
わたくしの鼓膜よちやんと受け止めよ
ひたすらに磨かれてる鼻眼鏡
突然に渦を巻きだす ああ蝉か
元カレの在庫の切れた破裂音

先月号のお気に入り
風船になろうっ からぼねやみ まみどり
おもしろい w

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

しりとりは暗闇みかんもう終わり
踊り場の無い階段をわたされる
関係者以外は見れぬ海の色
天城越え繰り返して夜の色
砂粒が動いてばかり冬の夜

先月号の
お気に入り
笑わない男のポケットの匂い 月並与生
どんな匂いなのかしら、どうしてもかいてみたいですよ。

むさし【むさし・青森県蓬田村】

星が降る小学校の木の机
右肘に夜が溜まつてしゃべれない
絵の中のペンが日記を書くと言う
吹雪かれて吹雪いて時が降り積もる
昨日から明日という日が流れ着く

参加者募集「川柳吟行会 ぽ」

熊谷冬鼓

当初彫刻の作品展を予定していたが展示期間とあわず、今回はアウガ地階の新鮮市場を吟行場所とした。この日昼過ぎに立ち寄ったせいかわ、皿盛りの魚も少なく、物色している客も数えるほどだった。居眠りをしている店主も何人かいた。各々の都合のいい時間に吟行し、五階の句会場に午後二時半に集合。作句時間は三十分ほど。全員で手分けして清記し、選をする。点数の入った句を合評し、点数は入らなかったが気になる句についても話し合う。気が付けば五時半、そろそろ片付ける時間だ。

階段を降りると組板の上に出る 五郎
相変わらず五郎さんが飛ばして最高の6点。

一字あけですか冷蔵用ロッカー 啓子
魚も川柳も一字あけで熟成するらしいなどと5点。

ト口箱の中から呼ばれたオトサン 五郎
とぼけた感じが楽しいと好評4点。

じつくりと休みを取った糠にしん こあき

『アウガ川柳教室』のお知らせ

【場所】青森駅前「アウガ」5階

【日時】毎月2回 第2・4火曜日13時～14時半

【講師】おかじょうき川柳社 代表 むさし

【受講料】1回 500円

□ 3/12(火)「噂」 □ 3/26(火)「嘘」 □ 4/9(火)「二人」 □ 4/23(火)「刺す」

□ 5/14(火)「それから」 □ 5/28(火)「ドア」 □ 6/11(火)「昔」

●投句先：〒030-1212 青森県東津軽郡蓬田村阿弥陀川字汐干43-3

むさし宛 / TEL.0174-27-2008 / E-mail: hmusashi@r66.7-dj.com

潮騒がひいていきます午後の市 こあき
ふんいきが出ているとどちらも3点。

組上に乗せられたり、生臭い箱に呼び戻される作者。旨くなるまで休んだ作者。魚市場で吟行したことで生まれた句だと言えよう。

会の名前を変えることにしたが、時間内に決まらず近くの居酒屋に移動した。角田古錐さんの角で「スクエア」とか「マロニエ・リラ」。水曜だから「水の会」とか。侃々諤々。ただの「ポ」はどう？ということになった。ポエム。ポエジーのポ。汽笛のぽ（おかじょうきだから）。ポリシのポ、散歩のぽ。と半ばこじつけのようだが「川柳吟行会 ぽ」に落ち着いた。

句会は毎月第三水曜日の午後二時半から約三時間。アウガ五階の会議室が句会場。参加費は百円。次回の吟行場所を決めて解散となる。日程変更や吟行場所についてはおなじょうき川柳社のホームページの掲示板に書き込むので見ていただきたい。

どこで聞いたのか、たぶんNHKだと思うのですが、中高年になれば何よりも、のどを鍛えることと指を動かすことが、大切だと言っています。のどの反射神経は鍛えられないけれど、のどの筋肉は鍛えられるということです。いろんな鍛え方、たとえばのど仏スクワットとか、おでこ嚙下体操とかありましたが、説明をしていた医者が、そのほかにわたしはフルートを吹いていますと言っていた。それでふと昔、デパートの催事場で「コンドルは飛んでゆく」を吹いていた方から、思わず買ったオカリナを思い出しました。

しばらくは練習していたけれど、案の定、ずっと引出しで眠っています。オカリナと言っても、一般的なものと違って丸い小さなペンダント型になったものです。だから一オクターブしか音域はありません。このオカリナには楽譜じゃなくて四個の穴を押さえる指使いが書いてある冊子がついていました。一オクターブで吹けるように編曲してあります。多いのか少ないのか、ともかく十曲です。その中の「ふるさと」と「ハッピーバー

リレーエッセイ 途中下車 乗客95.ひとり静

「コンドルは飛んでくれるか」

スデー」の二曲だけは練習したという覚えがあります。

この頃、なにかの拍子に咳が出るようになったので、これだと思いい練習をはじめました。しばらくは腹が立つくらい、指が動かなくて、変な音を出したりしていましたが、今は上手ではないけれど、なんとか普通に吹けるようになったと思います。わたしはそう思うけれど主人にとっては、耳障りな音らしい。

とても嫌がるので、今はバスルームで吹いています。洗面所のドア、バスルームのドアと、二重に音を閉じ込めて一日一回、十曲吹いています。のどは鍛えられるし、指も動かすし、一石二鳥じゃないかと思っているのに、主人の目はツンドラのように冷たい。もしかしたら、主人は絶対音感を持っていると思いついていないのかと怪しんでいます。

いつの日か青空にコンドルを飛ばすことができたらいいなと思っています。

私静かに

2月2日(土) 午後1時～ アウガ5F 小会議室

▼出席者(13名)

まきこ・守田啓子・熊谷冬鼓・北野岸柳・葉閑女・木村美映・土田雅子・むさし・須藤しんのすけ・吉田吹喜・笹田隆志・夏草ふぶぎ・小野五郎

▼投句者(12名)

米山明日歌・岩根彰子・石橋芳山・村上あつこ・田久保亜蘭・鳴海賢治・城後朱美・月波与生・まみどり・坂本清乃・きさらぎ彼句吾・奈良一艘

おかしようき川柳社

2月例会句会

席題『飛ぶ』

青森県青森市 まきこ選

【佳作】

飛べませんカボチャの蔓が伸び過ぎて 熊谷冬鼓
 ホップステップ液状化した着地点 熊谷冬鼓
 飛べるまで賢治の空に線を引く 須藤しんのすけ
 多色ボールペンすべての色で挑みます 守田啓子
 まだ飛べるイボイノシシは十五歳 小野五郎
 飛び続けています飛べなくなる日まで 守田啓子
 人さらいだろう「夜間飛行」をつけている むさし
 ここだけの話吹雪で飛ぶ練習 吉田吹喜
 イノシシだって羽をつければ飛べるのさ むさし

席題『飛ぶ』

青森県青森市 守田啓子選

【佳作】

軽やかに飛んでみせると言っただけど 北野岸柳
 メンタルが弱くて空に帰れない 小野五郎
 イノシシだって羽をつければ飛べるのさ むさし
 炭酸のお風呂明日は鳥になる 須藤しんのすけ
 おもいきり飛んだ昔もあつたつけ 北野岸柳
 飛びます飛びます坂上二郎飛び越えて 土田雅子
 人さらいだろう「夜間飛行」をつけている むさし
 奪つてはみたが飛ばないものばかり 葉 閑女
 どん底を蹴つてよいしょとジャンプする まきこ

高熱が出てまたひとつ罪が飛ぶ

夏草ふぶき

飛びます飛びます坂上二郎飛び越えて

土田雅子

弱腰も頭痛も飛んで二月尽

葉 閑女

羽はもう完治しているさあ外へ

吉田吹喜

カーテンを取替え蝶を待っている

小野五郎

断崖があります一緒に飛びましょう

むさし

【秀逸】

飛び方までネット検索してしまう 熊谷冬鼓
 メンタルが弱くて空に帰れない 小野五郎
 飛んでいるのだ落ちているのではない 吉田吹喜

【特選】

ネジ一本飛んで正しくなる脳波 夏草ふぶき

* 私も飛ばした方がいいかしら。

飛び方までネット検索してしまう

熊谷冬鼓

高熱が出てまたひとつ罪が飛ぶ

夏草ふぶき

「嵐」休止 限定付きで飛んでみる

土田雅子

羽はもう完治しているさあ外へ

吉田吹喜

カーテンを取替え蝶を待っている

小野五郎

クロノスの矢は∞へと飛んでいく

木村美映

【秀逸】

断崖があります一緒に飛びましょう むさし
 まだ飛べるイボイノシシは十五歳 小野五郎
 飛べるまで賢治の空に線を引く 須藤しんのすけ

【特選】

丹田をめざして冬の蛍飛ぶ 葉 閑女

* 目標にむかって生きるといいな!!

宿題『例』

青森県蓬田村

むさし選

【佳作】

美肌効果例えば温泉野生猿

彼はわたしが好きみたい例題1

厚塗りのパンダみたいアベノミクス

模範因明日も同じ眉を引く

例えば君がレーザー照射しても、して

凡人だそうですここに書いてある

例えばの話がながい内気です

例えばさあつて夜通し鼻濁音

ママゴトに使う三十二の偽名

判例はユダでカインで五右衛門で

Dまでの夫の取説咀嚼する

「例えば」と「もしも」ごっちゃの現在地

しきたりを聞かれて困るおしら様

例のもの白いタオルで隠しとけ

熊谷冬鼓

田久保亜蘭

村上あつこ

須藤しんのすけ

田久保亜蘭

吉田吹喜

鳴海賢治

きさらぎ彼句吾

須藤しんのすけ

石橋芳山

岩根彰子

吉田吹喜

夏草ふぶき

小野五郎

姻族は例えばかり言う家系

官邸に越後屋ばかり群れている

良妻賢母はここにありますほら私

例題が解けぬ大人になりました

例えば僕は新幹線の通過駅

∞とは数字でない。例を挙げなさい

【五客】

前例が上目使いでやって来る

前例は跨ぐ 秋は引きずらない

アニサキスといいいね！の数は比例する

例外は受け付けません煮大根

実弾を指鉄砲に詰める例

【人位】

終活は例えばイカの腑でしようか

【地位】

シリウスの真下で判例を交わす

【天位】

「除外例なき死」の前にいる何か

* 何かいるかなあ…。

葉 閑 女

村上あつこ

まき こ

城後朱美

土田雅子

木村美映

熊谷冬鼓

米山明日歌

守田啓子

熊谷冬鼓

月波与生

夏草ふぶき

須藤しんのすけ

木村美映

宿題『キヤリア』

青森県黒石市

吉田吹喜選

【佳作】

ネトウヨかゾンビか咬まれたら分かる

しゅわつちを五十年やってるエレベーター

キヤリアウーマンだった除菌される前

古希ですがキヤリア認定してもらおう

ノンキヤリアです清く正しく遊びます

柳号を二三度かえてみたかった

じいさまもばあさまもまだキヤリア組

二十年鼠も捕らずタマが逝く

葬列の長さなんかで君は語れない

底辺のキヤリア掛ける高さ割る2

黒革の手帳に妻の百ヶ条

鉄より切れ味のいい舌を持つ

フラメンコ激しく躍る事何度

ノンキヤリアわたくしというスペシャリティ

月波与生

小野五郎

守田啓子

熊谷冬鼓

まき こ

北野岸柳

田久保亜蘭

田久保亜蘭

きさらぎ彼句吾

月波与生

土田雅子

夏草ふぶき

北野岸柳

まみどり

肩書きを丸洗する屋台酒

これはキヤリアがなしたモザイクです

贅沢に月を眺めているのです

目隠しをされても深爪をしない

シャンシャンもキヤリアアップを怠らす

羽根をゆらしていませんかキヤリア組

【五客】

ありがとうと折鶴が解かれる

飽きるまで象は二階へ駆け上がる

往生するまでタバコ屋の看板娘

子育ての次は介護とキヤリア積む

世の中の黄色を手のひらに隠す

【人位】

キヤリアにはない羽がありますの

【地位】

塩梅をちゃんと知ってる漬物石

【天位】

草だった人の綺麗な踏まれ方

* 草だった人のりんとした生き方を感じた。

まみどり

鳴海賢治

守田啓子

夏草ふぶき

城後朱美

鳴海賢治

奈良一艘

須藤しんのすけ

田久保亜蘭

まき こ

須藤しんのすけ

まみどり

まみどり

まみどり

夏草ふぶき

夏草ふぶき

米山明日歌

宿題『自由詠』

青森県青森市 小野 五郎 選

【佳作】

融雪劑撒いて待ち伏せしています
 大阪で蛸と海鼠にすれ違う
 団栗コロコロ皴の深さを競い合う
 称賛の拍手か只の耳鳴りか
 十ミリに満たぬ影でも癌と言う
 密室の事件にとらやの羊羹
 爪は赤さあ化けの皮つけましょう
 モノクロに長岡針の瘦せた音
 巡礼の踵に流れ着く瓦礫
 少女には痣 統計調査はくもりがち
 里芋のぬめりのような答え方
 喜寿傘寿そこから先の雫ズクズク
 戦うものが見つからぬ日曜日
 結局はバラバをふやしたただけだった

土田雅子
 石橋芳山
 奈良一艘
 土田雅子
 田久保亜蘭
 田久保亜蘭
 まきこ
 石橋芳山
 むさし
 鳴海賢治
 米山明日歌
 奈良一艘
 米山明日歌
 木村美映

除雪車がおいてゆく近親憎悪
 熟年離婚湿布の位置が難しい
 プリキュアの足が散乱深夜バス
 真冬日に男の取り説買いに行く
 道連れに黒いマスクの居待ち月
 二酸化炭素かもしれないあたし

守田啓子
 まみどり
 月波与生
 夏草ふぶき
 岩根彰子
 吉田吹喜

【五客】

少年の名前は聞いた事がある
 愛はスポット憎しみは乱反射
 夕闇が喫水線を越えて 秋
 友達はいるのだろうか竹輪の輪
 どす黒い空だもうすぐ落ちてくる

田久保亜蘭
 きさらぎ彼句吾
 きさらぎ彼句吾
 きさらぎ彼句吾
 むさし
 むさし

【人位】

海があるはずのところにある砂漠

むさし

【地位】

元号が替わる秋葉原の雑踏

鳴海賢治

【天位】

海に雪私静かに焦がてます

まきこ

* ただならぬ緊張感、ドラマの展開はどうなる。

順位	氏名	打率
1	まきこ	0.833
2	田久保亜蘭	0.611
3	守田啓子	0.600
4	むさし	0.583
5	須藤しんのすけ	0.556
5	夏草ふぶき	0.556
7	熊谷冬鼓	0.533
8	土田雅子	0.467
9	きさらぎ彼句吾	0.444
9	米山明日歌	0.444
9	月波与生	0.444
12	奈良一艘	0.400
12	吉田吹喜	0.400
14	まみどり	0.389
15	石橋芳山	0.333
15	岩根彰子	0.333
15	小野五郎	0.333
15	北野岸柳	0.333
15	木村美映	0.333
15	鳴海賢治	0.333
15	村上あつこ	0.333
15	渡邊こあき	0.333

順位	氏名	本数
1	夏草ふぶき	5
2	まきこ	2
3	岩根彰子	1
3	きさらぎ彼句吾	1
3	木村美映	1
3	熊谷冬鼓	1
3	須藤しんのすけ	1
3	土田雅子	1
3	鳴海賢治	1
3	まみどり	1
3	むさし	1
3	守田啓子	1
3	米山明日歌	1

順位	氏名	打点
1	夏草ふぶき	20
2	須藤しんのすけ	15
2	まきこ	15
4	きさらぎ彼句吾	13
4	熊谷冬鼓	13
4	田久保亜蘭	13
7	守田啓子	12
7	米山明日歌	12
9	むさし	11
9	月波与生	11
11	岩根彰子	10
12	土田雅子	9
12	まみどり	9
14	奈良一艘	8
14	鳴海賢治	8
16	北野岸柳	7
17	村上あつこ	6
17	吉田吹喜	6
17	小野五郎	6
17	城後朱美	6
21	木村美映	5
21	葉閑女	5
23	渡邊こあき	4
24	石橋芳山	3
24	野沢省悟	3
26	坂本清乃	2
26	笹田隆志	2

打点

【総得点】

打率

【選句率】※規定投句数は最大可能投句数の50%

本塁打

【3点句数】

おかしょうき 三冠王への道

【三冠王への道】本社句会宿題詠で、打率（抜句率）・打点（総得点）・本塁打（3点句の数）を競うもの。

深艘心理

肝斑がうつすらバナナの人間臭

岩根彰子

(おかしょうき無人駅1月号より)

肝斑かんぱんとは主に30代〜40代の女性の皮膚に発生する色素斑しみの一種で目の外側にできやすい。そのしみが肝臓の形に似ていることからこの名が付いた。とウイキペディアには載っている。

治療法はトラネキサム酸やビタミンC、ビタミンE等の飲み薬、塗り薬なのだそうだから、バナナの皮を肝斑の出来たところに貼ってアンチエイジングをしている妙齢の女性？

それともバナナそのものが熟れて肝斑みたいな薄黒いシミが出てきたのはまるで人間みたい。と言って「イヤイヤ、そんな単純なことではないだろう。この句のキーワードは「バナナ」なのだ。

バナナは一本で実るものではなくほとんどの場合房で実る。その房は家族や親族、あるいは同期の仲間

だったり国家だったり、一つのコミュニティを連想させる表現。そしてバナナはその連結している茎の部分からエチレンガスが発生し熟成してゆく。その中の一本の個、つまり作者が、ある程度の年齢と経験を経てからの自身を顧みたま時、その茎とのどうしようもない妥協やおもねり、共生などの人間臭を知らず知らずのうちに放っている自分を見つけてしまったのだ。

しかし作者はこれを肯定もしてはいないし否定してもいない。ただ淡々とバナナの現在地だけを述べているだけだ。が、もしかしたら作者は意外とこの人間臭を大いに気に入っているのかも知れない。あらまーなんてこった。ふっふっふ。

十和田たてがみ川柳会1月句会

【時】平成31年1月19日(土)

【所】十和田労働福祉会館

【出席者】漆館ミノリ・久保あざみ・木村奈生美・斉藤蛙井・瀧尻善英・福田芳詔・村上昌子・高田幸柳

【投句者】磯島雅男・城後朱美

■席題『棲む』

高田 幸柳 選

【平抜き】

あの林月夜にぐらり影の棲む

村上 昌子

生きようと只管に棲む雑魚で有る

木村奈生美

留守番の風棲む家が春を待つ

村上 昌子

雪に棲み春を呼んでる福寿草

斎藤 蛙井

やっぱりねDNAに小鬼棲む

村上 昌子

棲みついた猫好き妻の情受け

福田 芳詔

マンションに住んで家相は気にならず

瀧尻 善英

寂しさを忘れたスマホの街に棲む

木村奈生美

【秀逸】

嫉妬には女と女棲むジェラシー

瀧尻 善英

程良さに保つ同居の車間距離

木村奈生美

【特選】

先生という狐狸が棲む永田町

瀧尻 善英

■席題『棲む』

瀧尻 善英 選

【平抜き】

北に棲み生きてますリンゴで便り

斎藤 蛙井

やっぱりねDNAに小鬼棲む

村上 昌子

程良さに保つ同居の車間距離

木村奈生美

棲むところ終いの住家のつもりです

漆館ミノリ

あの林月夜にぐらり影の棲む

村上 昌子

老いてなお心の奥に棲む野望

高田 幸柳

寂しさを忘れたスマホの街に棲む

木村奈生美

生を受け誰もが鬼と棲んでいる

高田 幸柳

【秀逸】

留守番の風棲む家が春を待つ

村上 昌子

弱さからうつむいている雪椿

久保あざみ

【特選】

雪に棲み春を呼んでる福寿草

斎藤 蛙井

■宿題 『すつきり』

久保あざみ 選

【平抜き】

一日をすつきり生きる顔洗う
泣いて泣いて泣いて明日は笑おうよ
あれ以来すつきりしてる未亡人
すつきりと神棚だけはすす払い
泣きじやくつた後はすつきり恵比須顔
家掃除すつきり主婦の手が荒れる
限界を知るすつきりとやり直し
すつきりとしなが平成幕降ろす
丸刈りで煩惱少し軽くなる
返済し終えてすつきりした書面
断捨離へ古い荷物を抱いて待つ
政治家のすつきりしない記者会見

木村奈生美
瀧尻 善英
城後 朱美
福田 芳詔
磯島 雅男
木村奈生美
齊藤 蛙井
齊藤 蛙井
高田 幸柳
磯島 雅男
村上 昌子
高田 幸柳
高田 幸柳
高田 幸柳
木村奈生美
瀧尻 善英

【特選】

髪を切り老母は童子になりました

瀧尻 善英

■宿題 『直ぐに』

齊藤 蛙井 選

【平抜き】

不祥事をすぐにごまかす身の速さ
直ぐ止めて珊瑚が安倍の嘘に泣く
でかけたら直ぐに帰ってくる夫
直ぐに名が出なく恐恐名を探る
転んでも藁でも石でも直ぐ拾う
生きる為直ぐ立ち上がる今日明日も
和解とはまず身内から風が吹く
尋ねても直ぐに返事をしない夫
札東が開かずの扉すぐに開け
忙しいカップ麺さえ待てずとは

高田 幸柳
村上 昌子
城後 朱美
磯島 雅男
村上 昌子
木村奈生美
久保あざみ
城後 朱美
瀧尻 善英
久保あざみ
城後 朱美
漆館ミノリ
瀧尻 善英

【秀逸】

おでかけはすぐにできない母となる
天気良し直ぐに心の洗濯を

【特選】

髪切つたとたんに春がやって来た

瀧尻 善英

■宿題 『スタート』

互選

①デビューです冬の空から歩き出す
①目をパチリ亀のスタートマイウエイ
①箱根路に繰り上げの時迫り来る
①スタートは真っ直ぐだった今迷路
①古い殻切り捨て始め出す脱皮
①細い道言い訳せずに歩きます
②人生の始発駅への忘れ物
②此処からがスタート一人立ちの道
②スタートに立った時から負けていた
④スタートもゴールも我流それもいい

久保あざみ
村上 昌子
福田 芳詔
齊藤 蛙井
木村奈生美
久保あざみ
高田 幸柳
高田 幸柳
木村奈生美
高田 幸柳
高田 幸柳
齊藤 蛙井
齊藤 蛙井

十和田たてがみ川柳会3月句会

【時】 3月16日(土) 午前10時00分から 【所】 十和田
労働福祉会館 【宿題】 (各題三句詠) 『足跡』久保あざ
み選 / 『卒のない』齊藤 蛙井選 【互選】 (二句詠)
『底力』当日出席者のみ(句箋の裏に雅号記入) 【席題】
一題(三句詠・共選) / 選者は、瀧尻善英ほか出席者
から一名 【投句先】 〒034-0049 十和田市西二十二番
町2-21 十和田労働福祉会館 高田幸柳



川柳作品をお待ちしております。

■題「時事川柳」むさし選

時事川柳をひとり何句でも。郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記のうえ
下記へ投句して下さい。

【投句先】 メール：aomori@yomiuri.com 「よみうり文芸」時事川柳係
ハガキ：〒030-0801 青森市新町2-2-4 新町二丁目ビル6階
読売新聞青森支局 「よみうり文芸」時事川柳係

【掲載】 毎週火曜日 / 【賞】 秀逸には図書カードを贈呈



川柳作品をお待ちしております。

■題「自由詠」Sin選

ハガキの表に「川柳」と明記し、ハガキ裏に作品(何句でも)、郵便番号、住所、
氏名、電話番号を明記し、下記までお送り下さい。

【投句先】 メール：tky.aomori@mbx.mainichi.co.jp 「毎日新聞・川柳」係
ハガキ：〒030-0803 青森市安方2-8-10
毎日新聞青森支局 「毎日新聞・川柳」係まで

【掲載】 毎週金曜日掲載

【賞】 月間賞、年間賞には図書カードを贈呈

三浦哲夫(福島)・千島鉄男・むさし・工藤青夏・笹田かなえ・田鎖晴天【連絡先】
青森県川柳連盟事務局 濱山哲也 ☎ 080-5574-9297【主催】青森県川柳連盟【協賛】
青森県川柳社

□ 2019.07.21 川柳ゼミ「青い実の会」二十周年記念大会

【日時】平成31年7月21日(日)受付11:30・席題発表12:00【会場】青森国際
ホテル2階「春秋の間」青森市新町1-6-18 017(722)4321 青森駅より徒歩3分
【会費】\4,500(懇親会・大会誌含む)【宿題】(各題2句詠・共選・字結び可)『天』
福土慕情・むさし『静』沢田百合子・豊巻つくし『歩』太田久・千島鉄男【席題】(2
句詠・共選・字結び可)「 」岩崎真里子・高瀬霜石【特別選】(2句)「扉」杉
山昌善(川柳作家・脚本家)【賞】各題天位賞(重複なし・繰り下げ)特別選三
才賞(各題天位賞との重複可)その他各賞【大会事務局】030-0962 青森市佃
3-3-19 田沢恒坊 TEL・FAX:017-741-9215

おかげようき川柳者ウェブサイトでは、
第23回杉野十佐一賞の結果を掲載しています。
柳誌に掲載しきれなかった選評も読むことができます！



□ 2019.04.05 第一回毎週 Web 句会誌上川柳大会

【題】「交わる」五名共選(一人二句まで。未発表句に限る。無記名清記選)【選者】
暮田真名・藤井智史・真島久美子・北山まみどり・加藤治郎【投句用紙】規定用紙
あり(コピー可)【投句料】1,000円(切手不可)投句用紙に同封して送付ください。
発表誌呈(7月中旬送付予定)【投句締切】平成31年4月5日消印有効【投句
先】〒901-0406 沖縄県島尻郡八重瀬町屋宜原189-3-303 森山文切宛* Webで
の投句も受付可。詳細は毎週Web句会トップページで確認【問合せ先】090-9780-
2704【主催】毎週Web句会

□ 2019.05.03 第26回金木桜まつり川柳大会

【日時】平成31年5月3日(金)受付9:30・席題発表10:00・投句締切11:00【会場】
芦野公園自然休養村管理センター2階 0173(52)2262 津軽鉄道芦野公園駅より徒
歩3分【会費】\4,000(昼食・懇親会・発表誌)【宿題】(各題2句詠・共選)(一部
選者交渉中)『広』佐藤ぶんじ・山野茶花子『羽』福土慕情・菊池京『目』三浦蒼鬼・
工藤まさひろ『強』熊谷冬鼓・太田久【席題】(2句詠・共選)「印象吟」北山まみ
どり・千島鉄男【岸柳杯】(1句)「もん」むさし【賞】宿・席題・北野岸柳杯共特選・
準特選を懸賞【主催】金木川柳の会【共催】金木桜まつり実行委員会【後援】五所
川原市・五所川原市教育委員会【連絡・問合せ先】090(7334)7297(成田我楽)

□ 2019.06.30 第61回「不浪人賞」第49回「年度賞」候補句募集

【応募資格】青森県在住者【応募料】青森県川柳連盟加入吟社に所属している方は
無料。無所属の方、また連盟だより(結果)の個人送付希望者は、その旨を明記の
うへ百円切手を同封ください(不浪人賞・年度賞一位に呈賞)【大賞作品】平成30
年1月～12月に発表された作品「不浪人賞」・「年度賞」のどちらか、または両方
の応募可(2賞への同一句の応募は不可)【応募用紙】所定用紙またはA4の用紙を
使用し楷書で不浪人賞(3句)と年度賞(5句)を分け、それぞれに住所・氏名・
電話番号を(集計上の為)記入ください【締切】平成31年6月30日(当日消印
有効・平成は新年号に変わります)【発表】大賞の速報を各柳誌に掲載。結果詳細
は「青森県川柳連盟だより」にて。尚連盟だよりの送付は基本的に所属吟社に一括
送付しますので応募の際は所属吟社記入のこと。【表彰】9月23日(祝)川柳忌県
下川柳大会にて *各賞1位に賞状と記念品(会場 グリーンパレス松安閣)【送
り先】〒038-3288 つがる市木造出来島雉子森33 青森県川柳連盟「不浪人賞・
年度賞係」宛【選者】★不浪人賞(6名)渡辺梢(埼玉)・赤松ますみ(大阪)・鎌
田京子(宮城)・新家完司(鳥取)・島田路舟(千葉)・野沢省悟(青森)★年度賞(10
名)長谷川酔月(秋田)・佐藤岳俊(岩手)・雫石隆子(宮城)・山口まもる(山形)・

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2019.03.15 ㄨ FM青森チャレンジ川柳！むさし流！

毎週土曜日お昼12時から放送中！ 入選→秀逸→特選と毎週3句を紹介。3月15日締切。4月放送【題】「ぼとり」【投句先】〒030-0812 青森市堤町1丁目7-19 (株) エフエム青森 チャレンジ川柳！むさし流！係 ※ FM青森のホームページからも投句できます。FAX:017-735-1186 もOKです。

□ 2019.03.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句 (5月号分)

【締切】3月20日必着【掲載】5/10 発行号【提出先】〒030-0861 青森市長島4-23-4-102 守田啓子宛 FAX017-723-5696【ネットからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>

□ 2019.04.06 おかじょうき川柳社本社4月句会

【時】4月6日(土) 午後1時～【所】アウガ5階小会議室【宿題】(各題3句詠)『輪』/『ケース』/『自由詠』選者は当日決定【席題】1題3句詠・2人共選/席題の欠席投句拝辞【研究吟】自由詠1句【投句締切】句会前日必着【投句先】〒030-0861 青森市長島4-23-4-102 守田啓子宛 FAX017-723-5696【ネットからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/>

□ 2019.04.15 ㄨ FM青森チャレンジ川柳！むさし流！

毎週土曜日お昼12時から放送中！ 入選→秀逸→特選と毎週3句を紹介。4月15日締切。5月放送【題】「撫でる」【投句先】〒030-0812 青森市堤町1丁目7-19 (株) エフエム青森 チャレンジ川柳！むさし流！係 ※ FM青森のホームページからも投句できます。FAX:017-735-1186 もOKです。

エッセイをください！

内容は自由、字数800字程度(用紙は自由・メール投稿歓迎)で締め切りは毎月15日。なお、いただいたエッセイを掲載するかしないか、掲載する順序などは編集者が判断しますのであらかじめご了承ください。

送付先：〒039-3502 青森市久栗坂浜田87-2 熊谷方
 おかじょうき川柳社 エッセイ係
toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

会員雑詠「無人駅」投句用紙

柳号

住所

府 都 道
 県

町 区 市
 村

※楷書でハッキリとお書きください。

★お気に入りの一句(最新号からお好きな作品一句と、それに対する簡単なコメントをお書きください。)

コメント

【投句先】
 〒030-0861
 青森市長島4-23-4-102
 守田啓子 宛
 FAX.017-723-5696

※この用紙を切り取るか、コピーしてお使いください。

■会費拝受（1月受付分） ※太字は新会員

西恵美子・月波与生（宮城県）/ 安藤なみ（愛知県）/ 悠とし子（北海道）/ 藤田めぐみ（東京都）/ 松谷早苗（石川県）/ **嵐清五郎**（滋賀県）/ 城後朱美（福岡県）/ 向山タエ子・**福士隆三**・渡邊静子・菊池京（青森市）/ 吉田吹喜（弘前市）/ ひとは（黒石市）/ 白戸まつ子（つがる市）/ 柳谷たかお（外ヶ浜町）

■おかじょうき川柳社 会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかじょうき川柳社

→会費：6,000円（1年分）

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

●投句全般についてはこちらへ●

守田啓子 moriko@okajoki.com

〒030-0861 青森市長島 4-23-4-102 FAX.017-723-5696

..... 終着駅 Sin

◆現在、「川柳Z賞」のデータ化の作業をしている。同賞は1983年に第1回が行われ、杉野草兵さんが亡くなった2007年まで、25回続いた。この賞に挑戦する柳人はもちろんのこと、選者に名を連ねることも、大きなステータスだったようで、選者だった橋高薫風氏が草兵さんに「頼むから選者から降ろさないでくれ」と懇願したこともあったそうだ（笑）私は第21回から、むさしさんと一緒に事務局の手伝いに携わり、発表誌の編集作業も請け負った◆このZ賞は、Z氏という黒幕が創設したという設定であり、草兵さんは一選者として名を連ねているだけであった。たぶん、選者にも秘密だったのだろう。だが、賞が話

題になるにつれ、第5回を終えたあたりから、もしかしたら、Z氏は草兵さんではないかという噂が立ち始めたのではないかと推測される。それまで、選の結果しか掲載しなかった草兵さんが第6回で選評を載せているのだが、その中で「選考上の問題点を頂戴している。Z氏と連絡をとりながらいい方向にもって行きたいと思う。」と「Z氏=草兵」の疑惑を否定するような一文を挟み込んでいるのが、また今読み返すと面白い。「頼むから、選評の最後に若い人の名前を挙げて欲しいと各選者に無理にお願いしている」と草兵さんが語っていた。この人の掌の上なら、いつまでも転がされていたと思った記憶が懐かしい◆Sin

